

平成20年度

仙台市放課後子どもプランモデル事業報告書



平成21年3月

仙台市放課後子どもプランモデル事業実行委員会

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

1	あいさつ	
	仙台市放課後子どもプランモデル事業実行委員会 委員長 山川由紀子	・・・ 2
2	教室報告	
	① 遠見塚YOU-GOクラブ	・・・ 4
	② スマイルパーク旭ヶ丘	・・・ 6
	③ 加茂っ子放課後教室	・・・ 8
	④ 東宮城野小学校 あげぼの教室	・・・ 10
	⑤ ニコニコにしやまっ子クラブ	・・・ 12
	⑥ 西中田コミュニティスクール（通称：こみこみスクール）	・・・ 14
	⑦ ミューズ・かのっこ広場	・・・ 15
	⑧ わいわいパーク黒松	・・・ 16
	⑨ 住吉台小学校放課後子ども教室「住吉だいつ子」	・・・ 17
	⑩ 将監けやきっこ放課後教室	・・・ 18
	⑪ つるまきっず わくわくクラブ	・・・ 19
	⑫ やしおキッズ（川前小学校）	・・・ 20
3	仙台市放課後子どもプランモデル事業を終えて	
	学校と地域の融合教育研究会	・・・ 21

＝ 仙台市放課後子どもプランモデル事業のホームページ ＝

本事業の内容をお伝えしたり、各教室間の情報共有を図るためにホームページを公開しています。

こちらもぜひご覧下さい。

<http://www2.zundanet.co.jp/kodomo/>



仙台市放課後子どもプランモデル事業実行委員会
委員長 山 川 由 紀 子

昨年度8月から2月に行った「仙台市放課後子ども教室モデル事業」を一步進め、「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の融合を目指した本事業が、参加した各教室とも大きな事故もなく滞りなく終了いたしました。これもひとえに関係の皆さまの深いご理解と絶大なご支援の賜物と、実行委員会を代表し、心より感謝申し上げます。

社会不安をおおるような重大事件や暗いニュースが後を絶たず、加えて長引く不況による社会状況の深刻化は、子どもたちの教育環境にも、大きな影響を与えています。私たちが目指してきた「地域教育力の再生」は、子どもたちが安心して過ごせる地域づくり、さまざまな面から厳しさを増す学校への支援、さらに教育環境が整わない家庭への支援を行うため、より早急な取り組みが求められています。今年度、健全育成事業にも取り組んだ各教室では、子どもたちが今現在、地域の人々の手を必要としていることを、まざまざと実感しました。両親が働いている家庭や、病気等で親が家庭にいない子どもに限らず、大人に愛情を求める子どもたちが急激に増えています。目上である大人に出会っても、自分からあいさつが出来ない子、子ども同士の遊びの中で思いやりや協調性に欠ける子、突然きれて暴力的になる子な

ど、核家族化や少子化、インターネット・携帯電話の普及などによる偏った人間関係が、如実に子どもたちに影響を及ぼしています。

子どもたちが通う学校を主な活動の場とし、地域の多くの方々が子どもと関わり、多様な体験活動や遊びの場をつくったり、子どもの主体的な活動を見守ったりするなかで、血の通った人と人との関わりが生まれるこの活動が、今こそ必要であると強く感じています。いろいろな年代の大人や異学年の子どもとの関わりが、このような場を作らなければ生まれない世の中になってしまいました。

今年度モデル事業に取り組んだ教室の中には、学校の改築により活動場所の確保が難しかったり、学校との共通理解がなかなか得られなかったりと、活動環境が十分ではない教室もあったと聞いていますが、それぞれの地域の方々がこの活動に関心を寄せ、協力していただける方がだんだんに増えたこと、多くの子どもたちが喜んで参加してくれたことなど、教室の運営に関わったものは確かな手応えを感じています。地域や学校によって、どのような活動が出来るか、またどのような活動が求められているか違いはありますが、私たちが続けてきた活動により、新しい地域の仕組みができる可能性

が見えてきました。

PTAのOBやOGが、子どもたちが通った学校に子どもの卒業後も関わり、地域の子どもたちのためにと活動の中心となって頑張る姿は、地域の諸活動に無関心な保護者世代の意識に働きかけ、影響を与えることが出来るかもしれません。世間では「親を教育することが必要」と言われていますが、少し先輩である私たちがその背中を見せることが、何かを考えるきっかけになるのではないかと、少し期待をしています。

今後、この取り組みを継続発展させるために何が必要かと考えたとき、やはり行政に期待するものが大きいと言えます。私自身、地域の方々の多大なご支援をいただき活動を継続して参りましたが、今年度「仙台市放課後子ども教室等事業」を受託し、消耗品や通信費などの経費、運営に関わるスタッフへの謝金など行政から出していただくことになり、安心して活動に取り組むことが出来ました。

運営に関わるスタッフは、地域や保護者との連絡や学校との調整、参加する子どもたちの安全確保など、日々多くの課題を抱えて活動しています。子どもたちとの関わりを通して、地域

づくりや学校支援の核となることが示されたこの活動ですが、地域有志の熱い思いだけで長年続けることは難しいのです。多くの学校でこのような活動が広がるように、行政による積極的な支援と経費の支出を求めてやみません。

子どもたちのために、子どもたちと一緒に、自分も何かしたい、と思う地域の大人がたくさんいることを、子どもたちに伝える場を作りましょう。温かいたくさんの目で見守られ、未来への夢を抱いて幸せな子ども時代を過ごせるように…

終わりに、フォーラムで基調講演をいただいた「学校と地域の融合教育研究会」宮崎 稔会長ご夫妻、ご支援をいただいた仙台市子供未来局、仙台市教育委員会生涯学習課の皆さま、そして各教室への連絡・調整など煩雑な事務処理をこなしていただいた実行委員会事務局に、心から御礼を申し上げます。



〈全体的に〉

通常の開催日は、子どもたちが自分たちで活動内容を考えている。宿題や苦手教科の学習では、指導員から教えてもらって進めている。また、自由遊びでは、友達と自然な形の交流ができる遊びを工夫している。

秋から冬にかけての開催日で、帰宅時刻が17時前だったため、十分な活動時間が確保されていたわけではないが、各々自主性を発揮しながら、短時間でも満足できる時間を過ごしていた。

月に一度の土曜日開催では、指導員の方でテーマを決め、季節に応じたイベントを開催してきた。

指導員が、テーマに適切な講師を選択し依頼してきた。内容としては、ゴム動力ヘリコプター、クリスマスケーキづくり、立体凧づくりと凧揚げ、映画会やどんぐりクラフトが挙げられる。すべて申込制となっており、自分たちや家族の都合に合わせて参加できる形態をとっている。

指導員は、コーディネーター・ボランティアスタッフを入れると17人いるが、常時5～6人で活動を支援している。地域の大人が中心だが、子どもたちにより近い年代が、子どもたちのためになるということで、在仙大学に声がけをし、2人の大学生スタッフに来てもらった。子どもたちは、大学生のお兄さんが来る

と、大喜びで屋外遊びに誘い、思い切り遊んできては満足している。

これらの活動の本質は、身近にできる参画を通して、大人たちの子育て支援の意識を喚起すること、また、学校と地域の融合を図り、子どもたちが、安全で安心に暮らせる地域社会づくりを目指すことにある。

今年度、クラブを開設してみて、上述二点がいずれも達成されたとは思えない。しかし、子どもを中心に据えた、このような活動を数年にわたり継続していくことができれば、いつしか地域住民らが、本当に暮らしやすい地域が構築されるであろう。

〈写真①〉「立体凧づくりと凧あげ」

指導員の佐藤さんの指導のもと、25人の子どもたちが参加した。校舎が改築の準備に入っていたため、校庭での実施はできなかったが、校舎裏の駐車場で、自分で作った凧を思い思いに飛ばしていた。

〈写真②〉「自主学习（通常開催日）」

授業が終わり、放課後子どもたちが集まってきて、それぞれの活動に夢中になっている。宿題や教科学習に取り組んだり、友達と遊んだり、自分で考えて活動してきた。遊びは、大学生ボランティアがいるときは、外で大勢で鬼



開催地：遠見塚YOU-GOクラブ(遠見塚小内)

利用施設：同上

開催日：毎週木曜日（月1回土曜日）

開催回数：32回

参加者：登録者数 27名 延べ631名

指導者：登録者数 15名 延べ227名

主な活動：

- ・自主学习（宿題、読書、各教科学習等）
- ・自由遊び（縄跳び、遊具、ごっこ遊び、たこづくり、けん玉、おはじき、折り紙等）
- ・土曜活動（たこづくり、どんぐりクラフト等）

教室の特徴：

- ・放課後、自由に遊べる場所づくりを目指す。
- ・子どもの主体性にまかせる。
- ・土曜日や長期休業中の活動は、講師等を招き、体験や経験を重視するようなメニューを組む。

ごっこをしたりかくれんぼをしたりしていた。

〈写真④⑤〉「どんぐりクラフト」& 「焼き芋フランク」

月1回の土曜日開催で実施したイベント。

泉岳少年自然の家職員とボランティアの方に来てもらい、どんぐりや木片などをプッシュボンドで粘着させ、自由な形にしていく工作を実施した。材料が豊富にあって、尚かつ、参加人数が少なかったこともあり、参加した子どもたちは、伸び伸びと制作活動に取り組んだ。中には、親子で参加したところもあり、家族の共通の話題ができたものと思う。1時間で終了の予定が、それぞれの子どもたちが夢中になってしまい、30分ほどオーバーしてしまった。

制作活動の合間をぬって、市民センターが用意したバーベキューコンロで、炭火焼き芋を実施した。さつま芋を水で濡らした新聞紙とアルミホイルで巻き、炭火の中に投入し、1時間ほどでふっくらした焼き芋ができあがった。また、その火を利用して、フランクフルトを焼き、煙が出ない火に、子どもたちはなぜか感動していた。

このような実体験を重ねていくことは、子どもたちの成長には欠かせないことである。学校だけでは学び得ない活動ができるのも、地域と連携しているからこそだと思う。

〈最後に…〉

実質8月からの教室開設であったが、マイスクールからの流れもあってか、子どもたちもすんなりとけ込んでくれたようだ。

本教室は、子どもたちの自主性に任せているところが多いが、現代の子どもたちには、「自分で考え、選択する」行為が必要であるからである。子どもたちには、もともと欲求を満たすためにどうすればいいか考える力が備わっている。現在の生活環境では、安全が優先されるため、制限禁止が多すぎると思う。

子どもたちへのアンケート結果からも、「好きなことができるから楽しい。」「友達とたくさん話ができる。」「いろんな遊びができるからうれしい。」という答えがある。ただ、注意しなければならないのは、やはり安全面である。子どもたちを野放し状態にするのではなく、危険に対する心構えや危険を予知する注意力をつけさせるための大人の助言が不可欠である。

だが、教室では課題も残る。子どもたちの遊びの多様化から、すべての子どもたちの欲求に対応できないときがある。来年度は、週に複数開催も考えており、開催曜日によって、自由遊びや講座的な教室など、ある程度テーマを決めて取り組むことも視野に入れておきたい。



開催地：仙台市立旭丘小学校
利用施設：旭丘小学校、老人いこいの家等
開催日：主に水・月曜、他に土・日曜など
開催回数：31回
参加者：登録者数80名 延べ787名
指導者：登録者数10名 延べ206名
主な活動：クラフト等のものづくり、読み聞かせ、マジックや腹話術、自然散策、パソコン、ゲーム大会、フリースペースなど

教室の特徴：平日の活動は、地域内外から老人会方や達人の講師を招いたり、スマイルパーク旭ヶ丘のお母さんの特技を発揮して教室を開催しています。休日は他団体との連携事業を企画して、地域内に活動の輪が大きく広がりました。

スマイルパーク旭ヶ丘活動日の午後。開始10分前には子ども達が続々と多目的室に集まってきます。低学年は部屋に入ってくると、ランドセルを置いて走り回り、一斉に話し始めます。時間になり、声をかけてもぜんぜん聞こえません。なんてすごいパワーなのでしょう。

今日は町内の老人クラブの方に来ていただいて「昔遊び」の日です。子ども達はおじいさんやおばあさんが大好きで、一緒に遊ぶのを楽しみにしていました。おじいさんにはベーゴマの回し方を教えてもらい、上手になるまで何度も一緒に回してくれました。

折り紙3枚で作るコマは、見た目もきれいで、回すと色が重なって、まるで虹のような、心引かれるコマができました。折り方が少し難しいので、1・2年生は何度も聞きながら完成させました。教室が終わり帰る時の子ども達の顔は、満足した笑顔がたくさん見られました。

今日は、町内の阿部さんと台原の高橋さんが来てくれました。阿部さんは書道教室の先生ですが、趣味でマジックをやっています。高橋さんは腹話術をしていて、お友達達の『かんちゃん』というところに出掛けて行って、子ども達に夢を与えてくれます。阿部さんの輪ゴム移動のマジックに子ども達は目を見張り、どうなっているのかな？ と、阿部さんの手元に釘付けです。たねを明かしてくれたら子ども達

もできるわかりやすいマジックでした。高橋さんにだっこされた『かんちゃん』が話し始めた時にとっても驚いた子ども達がありました。人形だと知っていても、『かんちゃん』に引き込まれて話し掛けた子もいました。この日も子ども達は満面の笑顔で帰りました。（鈴木）

「今日のスマイルはどこですか？」と、元気な子ども達が集まってきます。今年度のスマイルパーク旭ヶ丘の活動は、校舎改築のためプレハブの仮設校舎となり、校内での教室確保がままならず、時々地域の施設（老人いこいの家や町内会集会所など）を借りての開催が多かったのが特徴でした。学校の外で教室を開催する時は、一度校内で集合してスタッフ数名で引率するといった、安全対策にも配慮をしました。

年末に校舎が完成し、新年からはピカピカの新校舎での活動が再開されました。校長先生をはじめとして、先生方にはスマイルパーク旭ヶ丘で使用する教室の調整など、多方面でのご協力をいただいています。

もう一つの大きな出来事として、旭丘小学校・PTA・町内会・市民センター・社会学級と連携して、学びのコミュニティ事業「旭ヶ丘わんぱく森2（もりもり）がっこ」を発足したことです。これは、地域の共有財産である学校や市民センターを核に地域の人々が子どもに深



くかかわる「活動の場」を作り、地域社会、家庭、学校、社会教育施設等がそれぞれに持つ教育機能を活かしながら、子供の健やかな育ちの支援と地域の活性化を図ることをねらいとしたものです。

おもな活動としては、夏休みに「伝統仙台七夕を作り、青年文化センターに飾ろう」と、校外にある水の森キャンプ場での「ダンボールで秘密基地作り」を実施しました。何度も打ち合わせの場を持ち、準備をし、「さあ！本番」という日はあいにくの雨模様でしたが、そんな天気もなんのその！子ども達は先生・お父さん・おじいさん・お母さん・市民センターやジュニアリーダーなどの手助けを受けながら、ダンボールが材料とは思えない立派な基地が完成しました。子ども達の満足げな顔が印象深い一日でした。

2月には寒空の下、「ペットボトルロケット飛ばしと餅つき体験」をそれぞれ企画・運営しました。こうした地域間のさまざまな大人達がバックアップする事業に私たちが参加し続けることは、たいへん意義深いものだと思います。スマイルパーク旭ヶ丘の独自の活動でも、地域の方々と多くの関わりを持てた一年でした。

しかし、活動は子ども達には受け入れられても、保護者にはどうだろうか？ スタッフの人

員確保などの問題についてはどうだろうか？

先日の保護者に対するアンケートから「放課後に遊び場を提供してもらい、一人ではなかなかできないことを企画してもらい、子ども楽しんで参加させてもらっているようだ」との意見が多く寄せられました。活動そのものに対しては、賞賛する意見ではあるが、その反面、習い事や何かのサークルのように「子どものお預かりの場」と認識されてはいないか？保護者こそ、地域の一員であり、最大の子どもの理解者であるべきなのだから「子どもと一緒に楽しんだ」との感想を希望するところであり、そのためにもスマイルパーク旭ヶ丘の主旨・内容を理解してもらえよう働きかけも必至であると思います。そして一人でも多くの保護者に地域の人としての自覚を持ってもらい、スマイルパーク旭ヶ丘のスタッフとして、共に活動していただく事を切に願っています。

また、「来年度もずっとスマイルパーク旭ヶ丘を続けてほしい」という意見も多くいただきました。新校舎の併設で「旭ヶ丘児童館」が来年度から開設され、子ども達の「憩いの場」がまた一つ増えることとなります。地域のつながりをさらに大切にして、子どもの目線に立った「スマイルパーク旭ヶ丘」として特徴ある活動をこれからも行なっていきたいと思います。

(高平)



開催地：仙台市泉区加茂4丁目3番地

利用施設：仙台市立加茂小学校

開催日：毎週水曜日、木曜日、随時

開催回数：40

参加者：登録者数41名 延べ764名

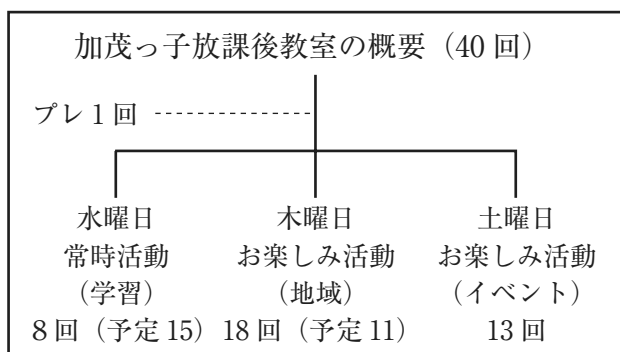
指導者：登録者数44名 延べ447名

主な活動：常時活動、お楽しみ活動、イベント活動

教室の特徴：毎週水曜日の常時活動を教室の軸とし、木曜日の地域の方が企画するお楽しみ活動や土曜日に開催されたイベントに参加しながら教室を運営した。

1. 加茂っ子放課後教室の概要

(1) 活動形態



加茂っ子放課後教室では開催にあたり、プレ教室を行った。その経験を踏まえて、水曜日の学習を中心とした「常時活動」、木曜日の地域の方が企画する「お楽しみ活動」、土曜日のイベントを中心とした「お楽しみ活動」に参加する形で延べ40回にわたる教室を開催してきた。

ア) プレ教室

初めての開催ということもあり、子ども会育成会や町内会と共催する形で、夏休みに「七夕飾り・灯籠作り」を企画して開催した。

イ) 常時活動

毎週水曜日の午後2時30分から午後4時30分まで加茂小学校内の「加茂っ子教室（※放課後の図工室）」を主な活動拠点として開催した。

【プログラムの例】

2：30 集合（出欠確認・挨拶）自由活動（遊

び、お話）

3：00 学習タイム（自主学习）

4：30 終了、解散

ウ) お楽しみ活動（地域ボランティア）

木曜日を中心に、地域の人材やボランティア団体の協力のもとに実施した。地域の方が企画する試みに、予想以上の協力が得られ、11回の予定が18回開催となった。そのため、水曜日の常時活動予定が8回になった。

（*水曜開催）

	月 日	内 容
1	* 9 / 17	パタパタ作り 1
2	* 9 / 24	パタパタ作り 2
3	9 / 25	おやつ作り
4	* 10 / 1	折り紙
5	10 / 2	風船細工
6	* 10 / 8	お話会 1
7	* 10 / 23	市民センター祭り準備
8	* 11 / 19	消防署見学
9	* 11 / 26	お話会 2
10	11 / 27	かるた取り大会 1
11	* 12 / 17	折り紙リース 1
12	12 / 18	折り紙リース 2
13	1 / 7	かるた取り大会
14	* 1 / 14	マフラー作り
15	* 1 / 21	萱場のおっちゃんとお遊ぼう会
16	* 1 / 28	マジック大会
17	2 / 5	萱場のおっちゃんとお遊ぼう会
18	2 / 12	加茂っ子写真会



盲導犬教室



花いっぱい運動



自転車教室



長命館公園で遊ぼう



焼き芋作り



餅つき大会

エ) お楽しみ活動 (イベント)

加茂地域には、児童センターや市民センター、消防署出張所などの社会施設があり、各施設の年間行事の中で連携できるものに積極的に参加した。また、地域の町内会や地域防災協議会、子ども会育成会、体育振興会、地域ボランティア団体、PTAと連携できるものを協議しながら、開催してきた。

	月 日	内 容
1	9 / 20	盲導犬教室
2	10 / 4	児童センター祭り
3	10 / 5	チャレンジスポーツ
4	10 / 11	防災訓練
5	10 / 25	市民センター祭り
6	11 / 8	花いっぱい運動 1
7	11 / 15	花いっぱい運動 2
8	11 / 22	自転車教室
9	11 / 29	長命館公園で遊ぼう
10	12 / 6	焼き芋作り
11	12 / 20	体育館で遊ぼう
12	2 / 7	ジュニアリーダーと遊ぼう
13	2 / 21	餅つき大会

(2) 運営組織

平成20年の5月から、「放課後教室」の運営のための準備に入る。子ども会育成会の会長をコーディネーターに、現PTA会長、連合町内会長、学校評議員、地域ボランティア団体、児童センター所長、市民センター館長で実行準備委員を構成する。学習アドバイザーとして、大

学生数名の協力を得る。

7月より、教室開催に向けて本格的に準備を進め、夏休み前に募集した「七夕飾り・灯籠を作ろう」を試行開催した。その反省をもとに、事務局として安全管理員6名を加え、夏休み後から募集を開始し、9月10日より教室を開催した。

運営委員会は、月1回、水曜日の活動後に開催し、活動反省及び活動計画を立案した。

2. 活動の成果と課題

(1) 成果

登録した41名の児童を中心に、イベントによっては全校児童と保護者を対象として、地域やボランティアの方の協力を得て教室を開催できたことは大いに意義がある。

今回の取り組みを通して、児童の健全育成に対して40名を超える人材ネットワークが構築され、地域の人的資源の新たな発掘につながった。

既存の地域諸団体の協力が得られたこと、また学校施設を使用することで、放課後教室を開催する意義について理解が得られた。

(2) 課題

運営することに追われ、地域や教職員への広報が十分ではなかった。住宅地域であるが、企業やNPO等新たな人的ネットワークとの連携が課題である。

教室運営に関しても、子供たちと地域の方のニーズを考えながら、適切に開催していく必要がある。



開催地：仙台市東宮城野小学校

利用施設：空き教室

開催日：毎週水曜14時から16時

特別イベント土曜10時から12時

きもだめし 18時から21時

開催回数：42回

参加者：登録者数 ●名 延べ892名

指導者：登録者数 ●名 延べ182名

主な活動：子供の居場所教室

教室の特徴：フリーな遊びとふれあい

特別企画（きもだめし等）

あけぼの教室にくる子どもたちは、時間とともに元気に教室に入ってきます。感心なことに、宿題！宿題！と言わなくても、自主的に宿題をはじめます。たまに分からないところを教える事もありますが、子ども同士で教えあうその姿も、学習の大きな力になっているような気がします。

基本的には自由あそびが中心です。その中でもオセロ、囲碁、将棋、折り紙、鬼ごっこ、お店やさんと色々ですが、楽しそうに遊んでいる姿が指導員一同の一番の励ましです。時には季節に合わせたおりがみや工作をすることもあります。遊んでいるあいだにケンカになることもありますが、指導員が仲裁に入ることもありますが、そばで様子を見ていた上級生があいだにはいることもあります。仲直りをするまでの過程、悪い事を認めて謝る姿に大きな成長を感じる事すらあります。

全校児童200名あまりの小さな学校のアットホームな長所を大切に、あけぼの教室も、来たときに来て、帰りたいときに帰るという、フリーな教室にしています。

コーディネーター4名の他、約6名のボランティアの保護者でローテーションを組んで開催しておりますが、あけぼの教室に参加することによって、教育？共育への意識も高まっているような感触があります。

来年度は、指導員の講習会なども計画して、東宮城野の子どもたちのすこやかな、成長の一

端に関わっていただければとおもいます。

とくに今年度は保護者講師・社会学級・仙花さん・仙台風の会のお力をお借りして活動の幅も広がったかとおもいます。

今後の課題としては、お便り等活用し保護者の方々に広く理解と協力を得ていけるよう努力していきたいとおもいます。

児童館があれば、子どもたちはもっともっと安心して放課後をすごせるのかな？と思います。今できることを精一杯していく、今いる場所でベストをつくすこと、それが、「あけぼの教室」を開催している私たちの気持ちです。これからも、子どもも保護者も先生も楽しんでもらえる教室にしていきたいと思えます



5. 28 仙花さん共催【花育】

仙花さんにお花を提供していただきました。

花壇作り→押し花→しおり作り→学区内の老人施設にプレゼント。年間を一つのプロジェクトに考え取り組みました。子どもたちが手渡しでしおりをお渡しした時の施設の方々の笑顔は最高でした。



7. 28 きもだめし



11. 9 ふれあい囲碁



2. 22 凧づくり (仙台凧の会)



3. 11 チヂミ教室

7. 28 きもだめし

普段、PTA活動になかなか参加できないお父さんがたがたくさん協力してくださる、貴重なイベントになりました。卒業生もお手伝いに来てくれ、縦のつながりもできてきました。子どもの参加人数も全校生徒の半分にあたる100名を超える人気です。こどもより大人がはまるイベントです。

11. 9 ふれあい囲碁

中央市民センターとの共催で、安田康敏をお招きして囲碁のルールだけでなく、囲碁を通して心がふれあえること、ふれあいが人と人との基本であることなどお話しいただきました。核家族がふえ、家にかえってもなかなか会話の少なくなっている子どもたちへの接しかたを教わりました。

2. 22 凧づくり

仙台凧の会の方々に来ていただき、ひとりひとりマイ凧を作りました。保護者の参加も訴えあけほの教室の活動も見てもらいました。

3. 11 6年生を送る会 (チヂミ教室)

いままで下級生のお世話をしてくれた、6年生に感謝の心をこめて送る会を開催しました。

韓国出身の保護者のお母さんに講師をしていただき本場のチヂミの作り方を教えてもらい、美味しくいただきました。



開催地：仙台市宮城野区燕沢2-23-1
利用施設：仙台市立西山小学校
和室・コミュニケーションルーム

開催日：月・水曜日

開催回数：41回

参加者：登録者数 25名 延べ764名

指導者：登録者数 9名 延べ179名

主な活動：宿題・自由遊び・体験活動

教室の特徴：

- ・児童館・学童保育の立地条件が良くないため、どちらにも登録していない児童が多い。学校という好条件を生かして、子どもが安心していられる「居場所」にする。
- ・宿題をとおして学習の楽しさを、遊びをとおして友だちの温かさを、地域の大人から生きていく力を育んでもらいたい。

(1) 日々の活動

教室には、1年生が先をあらそうように「ただいま～」と帰ってきます。連絡カードを出し、宿題をおしゃべりしながら始めます。遊ぶことが決まっている子は、黙々と仕上げ、遊びの1番乗りを宣言することもある。

室内では、大きな積み木がおいてあるので、それを基地にダンボールや折紙の武器やカードで戦いごっこ、厚紙で魚を作り、磁石とクリップでの魚釣りがはやった時期もありました。

外では、「おにご」、大学生のお姉さんや高校生のお兄さんを相手に、顔を真っ赤にして走りまわります。縄跳びは、ひとりで練習する子、長縄で何回飛べるかを数えたりしました。

小さいゴールが中庭にあるので、ミニサッカーをすることもありました。

1年生が多いので、何をするのも「勝ち」たくて大騒ぎ、仕切りたい子、混ぜてもらえなくて泣く子、何度注意しても、「だって～」となかなかうまく、仲良く遊べない日も多々ありました。

中学年・高学年は、人数も少なく和室で学習アドバイザーさんにじっくり勉強を見てもらったり、折り紙を折りながらおしゃべりしたり、トランプをしたり、ゆったりとした、楽しい時間を過ごしていました。

おばあちゃんのような穏やかな学習アドバイザーさんとの語らいは、とてもいい時間だと思いました。

目いっぱい遊んだ後は、お片付けと帰りの準備

です。興奮した状態で、なかなか上手に片付けられない時があり、そこで、早めに片付いた日は、本を読んでもらえることにしました。それからは、少し上手に片付けられるようになりました。

本を読んでもらっている間も、いたずらする子もいるのですが、ほとんどの子は真剣そのものです。じっと本を見つめ、耳をかたむけ、お話に聞き入ります。

遊びの興奮がおさまり、帰りの会をします。

最初は、ちゃんとお話が聞けない子が多かったのですが、だんだん、聞いてくれるようになりました。

閉校式では、校長先生にも「お話が上手に聞けるようになりましたね」と誉めていただきました。

(2) 特別活動

①「どんぐりでトトロを作ろう」

泉が岳少年自然の家の先生に来ていただいて、木の実を使って「トトロ」をつくることになりました。先生もたくさん木の実や枝を持ってきてくれました。

ホットボンドの使い方を教わり、木の実を選び、個性的な「トトロ」や怪獣を作りました。

②「おちばでアニメーションを作ろう」

モミジやケヤキ・イチョウの葉っぱを、事前に拾い押し葉にしておきました。

メディアテークの先生に、パソコン・カメラを持ち込んでいただき、アニメ作りのソフトを



利用しました。

最初は、よく仕組みが解らなく、とまどっていました。だんだん、おもしろくなってきて、色や形にこだわってみたり、撮る人、動かす人と役割が代わったりと、グループワークを楽しんでいました。

後から音楽をつけてもらい、フォーラムで発表していただきました。

③「おむすびを作ろう」

安全管理委員の大学生2人は、栄養学を勉強している学生なので「何か」得意技をと依頼して実施した企画、「飾りおむすびを作ろう」でした。

具も、シャケやおカカ・ツナマヨ・お漬物と用意し、ラップでごはんをおむすびにしました。

海苔で飾りを作るのですが、凝りに凝った物を一生懸命作る子、とにかく大きいおむすびを作る子それぞれでした。

最後の試食は、おいしそうに食べる子と、「お家」の人と一緒にという優しい子とにわかれてきました。

とても上手に「おむすび」ができました。

大学生のお姉さんたち、「ありがとう」でした。

④「折紙教室」

折紙教室は、2度企画しました。

1度目は、クリスマス前に本校教員に「クリスマスツリー」の作り方を教わりました。

2度目は、ひな祭り前に、地域の「折紙の先生」に来ていただき、お内裏さまとお雛さまを折りました。

どちらの時も、「上手にできないから、僕やらない！」という子がいましたが、みんなが楽しそうに折紙を選んだりしていると、自分も選び始め、「どうするの?」と作り始めます。

自分のため、姉妹のため、お母さんのためと大事に作品を持ち帰りました。保護者の方からも、「玄関に飾りました」とお便りをいただきました。

(3) 研修会

「お笑ひ絵とき説法」

(ヒトは人間に育てられ初めて人間になる)

徳照寺 住職 佐藤 和丸さん

お坊様なのにお坊様らしくない佐藤住職より、絵を交えながら、子育てのありようをお話いただきました。

(4) 成果と課題

初めての試みで、何をどうすればいいのかも解らずスタートしましたが、子どもたちはいろんな事をしながら、楽しく過ごしてくれました。多くを与えずとも、自由に遊び、学んだのではないのでしょうか。

「来年はいつから?」と言われることは、この活動の成果ではないかと思えます。子どもの放課後の居場所としては、成功だったと言えます。

指導員は、保護者の不理解、地域への未認知などと、課題は多いのですが、次年度につながる問題として解決できるものと思えます。



百人一首かるた教室：第2・4土曜日開講
1～6年生までの児童が競技かるたに取り組みます

開催地：仙台市太白区西中田7-7-1
利用施設：仙台市立西中田小学校
開催日：月・水・木・金曜放課後、土曜全日
開催回数：155回（開催日数）
参加者：登録者数 230名 延べ2,501名
指導者：登録者数 30名 延べ890名
主な活動：地域ボランティア講師による子どもたちの活動支援（囲碁・百人一首・書道・手芸・フラワーアレンジ・ビーズ・パソコン・合唱ほか）、地域教育施設・団体（市民センター・児童館ほか）との共催事業、児童館児童クラブに登録できない児童の居場所づくり
教室の特徴：校舎内の事務局を中心に地域主体での運営・活動

平成16年5月に開講した「西中田コミュニティスクール」では、これまで行ってきた地域ボランティア講師による講座、地域の教育施設や団体との共催事業に加えて、今年度は仙台市の委託を受け、児童館で行う放課後健全育成事業「児童クラブ」に登録ができない児童の居場所づくりにも取り組みました。

西中田小学校北校舎1階の生活科室を主な活動場所に、月・水・木・金曜日放課後の活動でしたが、登録児童は8名と当初予定していた人数を下回りました。そのうえ、年度途中で転出する子や、曜日によって習い事などでお休みする子もいて、スタッフの数より参加児童が少ない日もありました。

参加人数は少なかったものの、これまでの講座を中心とした活動では見えなかった、子どもたちへの地域の関わり方が見えてきました。

子どもたちの中には、家庭での学習環境が整わない子や、児童クラブのような大集団では活動が難しい子がいて、一人ひとりに向き合う時間が取れ、児童館より細やかな対応ができる居場所が必要であることが分かりました。また、これまでより子どもと深く関わることから、気持ちの通い合いやスキンシップなど、スタッフと子どもたちとの新しい関係が生まれました。

次年度は、より多くの子どもが参加を希望しています。今年度の活動から学んだことや考え

たことを踏まえて、保護者との関わりを強め、子どもたちが安心して過ごせる楽しい居場所になるように努めたいと思います。

開講以来続けている各講座は、講師の先生方のご協力で順調な活動ができました。ただ、参加人数を見ると昨年度よりだいぶ減少し、活動のマンネリ化を感じます。また、同じ子どもが何度も参加するなど参加者が固定化し、裾野を広げることが出来ませんでした。柳生市民センターで活動しているサークルや、西中田小を拠点に活動している団体などと、連携した活動が出来ないか次年度に向けて検討しています。

これまでの子ども教室事業の実績を元に、12月に西中田小学校が「学校支援地域本部」の指定を受け、学校の関わりが強まったことは大きな成果と言えます。子どもたちの音楽活動の成果を披露する場として、例年行ってきた「コンサート」に、今回初めて教職員が出演するなど、地域に向けて学校の積極的な姿勢が示され、今後の活動に大きな期待を抱くことが出来ました。

地域に住む多くの方々に運営と活動に関わっていただき、多大な支援を受けて継続してきた活動ですが、学校の関わりにより、学校と地域がともに助け合い学び合う活動、より多くの子どもたちが参加してくれる活動となることを目指し、今後も進めたいと思います。



開催地：仙台市
利用施設：仙台市立鹿野小学校
開催日：月～土
開催回数：37回
参加者：登録者数 60名 延べ591名
指導者：登録者数 20名 延べ84名
主な活動：パソコンミュージック、ギターを弾こう、オカリナを吹こう、伝統太鼓、工作教室他
教室の特徴：ものにふれさせる、ものを作らせる、ものを大切にする。音楽家の集団とかのっこのボランティアのコラボレーションから生まれた活動がミュージズかのっこ広場。

ミュージズかのっこ広場は今年度も引き続き鹿野小学校を会場に精力的に活動しました。内容としましては、仙台伝統支倉太鼓・パソコンで音楽作ろう・ギターを弾いてみよう・イギリスの丸いオカリナを吹こう・楽しくリコーダ・ミュージックベルアンサンブル・ゲームで遊ぼう・工作タイム・料理教室・ハロウィンパーティー・クリスマスパーティーなど非常に多岐に渡った多彩なものになりました。

中でも伝統太鼓は、初年度から続けていることもあって、人前で発表出来るまでに上手になりました。地域のお祭りや学校の運動会などで盛んに演奏を披露しました。厳しい太鼓や踊りの指導にも大分慣れてきて、統率のとれた動きが普通になり、昨年とは見違えるように成長しました。工作タイムでは、下級生にとってやや難しい時など、上級生が率先して下級生の手伝いをしたり指示をしたり出来るようになり、関係者を喜ばせてくれました。

この教室の特徴である音楽の取り組みについては、イギリスの丸いオカリナはとても人気がありました。毎回たくさんの希望者が集まり、中には自分でオカリナを購入する生徒もいました。押さえる穴が少ないこと、大きさが小さいことなどの理由で下級生にも手軽に楽しく演奏出来ました。ミュージックベルやドレミパイプでは、ボランティアの方達のお陰で統率がしっ

かりとれて活動が大変スムーズに進行しました。慣れない楽器でタイミングがとり難くても一生懸命に合わせようとしていました。またパソコンミュージックは、当初作曲を大きな目的としていましたが、その前の段階の音符の基礎の練習にかなりの時間がかかり、ごく簡単なメロディーの作曲に留まりました。でも自分で作った曲がパソコンやキーボードから流れてくるのを聞いて子供達は大喜びでした。

時間とともに違ってきたのは、子供達の目の輝きです。出来なかったことが出来たり、解らなかったことが解ったり、知らなかった新しいことを知った時など、純粹に心を開いて喜ぶ姿が多々見られるようになりました。また保護者の中にも活動の手伝いをしてくれる人も出てきました。まだまだ充分とは言える状況ではないと思いますが、すこしずつでもコミュニケーションが出来るようになってきた表れではないかと思っています。

スタート時はオリエンテーションが重要と感じました。保護者達も与えられるということに慣れ過ぎていますが、地域に居る大人の一人として出来ることから少しずつ行っていくことの意義を理解して欲しいと感じました。



開催地：仙台市泉区黒松
利用施設：仙台市立黒松小学校
開催日：毎週、月～木曜放課後、土曜日
開催回数：クラブ140日、教室38回
参加者：登録者数 776名
参加者延べ：2,638名
指導者：登録者数23名 延べ423名
主な活動：自由広場、スポーツパーク、体育館自由開放、多彩な遊び講座、学習アドバイザー導入、
児童クラブ「わいわいクラブ」
教室の特徴：地域諸団体と連携し保護者を中心に子どもの居場所、子どもと大人との交流の場作り。

平成17年5月に文部科学省委託事業、地域子ども教室として設立後、仙台市放課後子ども教室モデル事業を経て、平成20年度より仙台市放課後子ども教室等事業として活動している。子どもが安全に様々な遊びを経験しながら、異学年の子どもや大人と関わりあうことの意義が徐々に浸透し、子どもの参加数を安定して確保しており、保護者からの反響も大きい。全児童対象の子ども教室と、登録児童対象の児童クラブ「わいわいクラブ」の二本立ての活動の中で、本年度は多くの成果と課題が生まれた。

成果 ①市からの予算を得たことで活動費と最低限の人材の確保が出来、安定した運営が可能となった。②活動の根底に子ども未来局と生涯学習課が関与していることは、地域や学校への説得力になっている。③四年目の活動に入りスタッフやボランティアが育ってきた。④児童館との連携や子ども会育成会が共催として参画、また、運営委員会に学校の代表として教頭先生が加わったことなど、地域諸団体との協力関係が大きく全進した。⑤児童クラブの実施により、両親、母親が仕事を持つ家庭への子育て支援の役割を担うことが出来た。

課題 ①全児童が対象、希望者から抽選する「子ども教室」と、登録児童対象の「わいわいクラブ」それぞれの運営の仕方と交流のあり方に改善の余地がある。両方のメリットを生かし、無理が無い実施回数とは。交流によって遊びや子ども同士のかかわりが広がる一方、個別

に働きかけが必要な子どもに対して、どのように遊びへ誘い楽しんでもらえるのか。スタッフや指導員が話し合いをもち、同じ理解のもとに子どもと遊んだり接していくことが大切だと感じさせられた。②有償で指導員や学習アドバイザーを配置した事、昨年まで活用していたPTAの保険が一般保護者に使えなくなった事などが微妙に影響し、料理やクラフトには多い大人の参加者が、自由広場などには減少傾向にある。地域への広報や魅力ある教室内容の工夫により、大人の参加者を増やす努力が、引き続き必要である。③わいわいクラブは、毎日、放課後を過ごす為、遊びや安全のルールの徹底、子どもがくつろぎ、その子どもなりに楽しく過ごす為の細かい配慮や環境整備が求められる。外遊びの時間やおもちゃ、学生のボランティアの活用など、まだまだ検討が必要である。今年度は、先生方から子どもについて助言をいただき話をする機会があり、子どもの居場所についてより深く考えさせられることが多かった。子どもと向き合い、共に遊び共に笑い、時には叱り関わる中で、先生ではない地域の大人の私たちに何が出来るのか。何処までやるのか？絶えず試行錯誤の繰り返しである。一緒に活動するスタッフ、ボランティアの熱意と子どもの笑顔や嬉々として遊ぶ姿に励まされ、改めて、子ども教室を継続していく意味や想いを確認し、次年度へ向けて心を新たにスタートしたいと思う。

住吉台小学校放課後子ども教室「住吉だいつ子」



開催地：仙台市立住吉台小学校

利用施設：小学校図書室、体育館

コミュニテイセンター他

開催日：平成20年4月～平成21年3月

開催回数：59回

参加者：登録者数 105名 延べ1,750名

指導者：登録者数 40名 延べ381名

主な活動：歌の学校・親子ウオークラリー

図書室開放(火曜日わくわくタイム)

和太鼓(住吉だいつ)

教室の特徴：4つの教室それぞれが、地域と連携しながら、自立した活動を行っている。

(1) 目的

学校、地域など様々な人々の協力のもと、子ども達に安心して安全な居場所を提供すると共に、異世代、異文化の交流をはかり教育力ある地域づくりのためのネットワークづくりを目的とする。

(2) 関係団体

- ・住吉台小学校・住吉台小学校PTA
- ・中学校区地域ぐるみ健全育成協議会
- ・連合町内会・主任児童委員
- ・社会学級・和太鼓クラブ住吉だいつ
- ・住吉台小図書司書
- ・住吉台小退職教諭

(3) 教室

- ①図書室開放「火曜日わくわくタイム」
- ②和太鼓
- ③歌の学校
- ④親子ウオークラリー

(4) 本年度の活動

- ①図書室開放「火曜日わくわくタイム」

日時：火曜日15：00～16：20

場所：図書室 教室開催：18回

対象：1・2年生 登録者：76名

参加人数：1回約50名 延べ886名

スタッフ：1回約9名 延べ165名

昨年より継続ということもあり、登録者が大幅に予想を上回り、いろいろ修正が必要であったが、工作、ゲーム、昔遊び、読み聞かせなど、普段体験できないようなことで地域と交流。

- ②和太鼓(協力：住吉だいつ)

日時：土曜日 10：00～12：00

場所：体育館 教室開催：33回

対象：4・5・6年生 登録者：29名

参加人数：1回約25名 延べ802名

スタッフ：8名

毎回の練習の他、団地のお祭りや学校行事にも参加。今年度は学校の20周年記念で大人の地域チームを作り、更なるネットワークを築く。

- ③歌の学校(協力：退職教諭)

日時：月1回土OR日曜 10：30～12：00

場所：住吉台コミュニテイセンター

教室開催：7回

参加人数：1回11名 延べ77名

歌、楽器演奏、リズム体操など

- ④親子ウオークラリー

日時：平成20年10月5日(日)

9：00～14：30

場所：コミセン、体育館、中央公園他

参加人数：親子56名(親27名、子29名)

スタッフ：19名

新しいネットワークをつくるための恒例行事。

校長先生はじめ学校から大きな協力を頂いている。

- (5) その他

- ・学校専用掲示板や「だいつ通信」で広報
- ・現役の保護者スタッフが少ないことが課題



開催地：仙台市泉区将監
 利用施設：仙台市立将監小学校
 開催日：月・水・木曜日と休日及び長期休暇
 開催回数：107回（体験含）
 参加者：登録者数43名 延べ3,192名
 指導者：登録者数10名 延べ461名
 学生ボランティア：登録者数5名 延べ218名
 主な活動：常時(自由)活動、親子イベント、
 体験活動、お楽しみ活動など
 教室の特徴：異年齢（3～6年、高校生、大学生）の交流、家族交流、地域交流、
 行事参加（希望者）

将監けやきっこ放課後教室は将監小学校、地域諸団体、大学生ボランティア、企業、明成高校の協力を得て、3～6年生43名の子どもたちと共に昨年度の2.5倍にあたる107回の放課後教室を実施。子ども自身の意思に基づく自由活動を基本に、コーディネーター、運営委員、学生ボランティアが子どもの様子を見ながら勉強・遊びをサポートした。

昨年度の反省に基づき、今年度は教室運営について保護者の理解を得る三つの取組みを実施した。

一つ目は教室活動開始前に行なった保護者説明会。登録希望児童の保護者は必ず説明会に出席してもらい、教室運営について理解と協力を求めた。

二つ目は保護者への情報提供と連絡の徹底。教室専用携帯電話の設置、連絡帳の活用、一斉メール配信システムの利用、毎月の教室だより等で保護者に教室実施日と活動時間、子どもたちの様子を伝えた。また欠席の連絡は必ず保護者から入れてもらうことも徹底した。

三つ目は親子イベントの実施。全て申込制で参加を募り、参加した親子、運営委員、ボランティア、先生方が体験活動を通じて親睦を深めた。今年度の保護者の参加人数は述べ117名。放課後教室について少しずつ理解の輪が広がっていると感じた。

21年度から授業時数増により減ってしまう放課後の時間。それでも3～6年生の子どもたちが集う「居場所」として楽しい時間、安全な場所、安心できる環境を引き続き提供していきたいと思っている。

イベント活動記録	
4月	16(水) 23(水) 30(水) 体験教室 30(水) 保護者説明会
5月	10(土) 田植え 12(月) プーメラン作り 28(水) 音で遊ぼう
6月	4(水) 折り紙で遊ぼう 16(月) 紙リンピック 18(水) おはなし会
7月	2(水) 七夕飾りを作ろう・梅の収穫 22(火) ～25(金) Study Room in Summer
8月	20(水) ～25(月) Study Room in Summer 24(日) けやきっこスペシャルデー 「親子で楽しむ夏の日」
9月	20(土) 陶芸教室① 27(土) ふるさと探検
10月	1(水) 8(水) カメラを楽しもう 4(土) 稲刈り 12(日) フリーマーケット参加 14(火) Study Room in Autumn 15(水) 親子でわいわいクッキング 25(土) 陶芸教室②
11月	5(水) お手玉作り 15(土) 収穫祭り 17(月) ジャグリングショー&体験教室
12月	8(月) ゲーム大会 13(土) おひさまパンを作ろう 20(土) しめ縄作り 24(水) 蕎麦打ち体験 25(木) 教育課題研究発表会参加 26(金) Study Room in Winter
1月	7(水) Study Room in Winter 8(木) おにぎりランチ 17(土) みんなでジャンプ シェルコム大会 21(水) 28(水) 小正月のもち飾り体験
2月	21(土) 凧作り
3月	3(火) けやきっこ1日体験 4(水) お楽しみ会 25(水) 26(木) Study Room in Spring



開催地：宮城県仙台市宮城野区鶴巻
 利用施設：仙台市立鶴巻小学校
 開催日：第2火曜日、第2、3、4土曜日他
 開催回数：
 参加者：登録者数 35名 延べ725名
 指導者：登録者数 7名 延べ124名
 主な活動：

- ・スポパークつるまき～体育館自由開放
- ・サイエンスパークつるまき
- ・おはなし会、楽しいリトミック など

教室の特徴：

- ・鶴巻小学校、鶴巻小学校PTA、鶴巻児童館の協力の下、放課後の子どもの居場所や交流の場をつくる活動を行う。

I 目的

地域各種団体が連携して、放課後や休日の子どもの安全な遊ぶ場所や交流の場を提供する。

II 活動内容

1 放課後や休日の子どもの居場所づくり

(1) 運動に親しもう～スポパークつるまき

- ◎運動をとおして子どもの健全育成を図る。
- ・土曜日午前中の鶴巻小学校体育館自由開放。
- ・バレーボールやバスケットボールを楽しむ。
- ・体育館を会場に毎月第2、第4土曜日に実施
- (2) 伝統文化に親しもう～すずめ踊りを踊ろう
- ・郷土仙台に藩政時代から伝わる「すずめ踊り」を踊ることを通して、地域の歴史や伝統文化を知る。
- ・教えていただいたすずめ踊りを、地域のイベントで披露し、地域の方との交流を図る。

2 休日の学習支援

(1) 夏休みおもしろ教室

- ◎鶴巻小学校の教師の協力を得て、普段の学校の授業とは一味違った「講座」を開設する。
- ・子ども達の興味・関心に基づく自発的で楽しいプログラムを組み、自発的で楽しい学習活動をとおして、夏季休業中の学習を支援する。
- ・「リコーダーを楽しもう」「自然素材を生か

したクラフトづくり」「パソコンソフトを活用した作品づくり」「楽しい筆文字」など

- ・鶴巻小学校の教室を会場に夏休み中に実施
- (2) 楽しい理科教室～サイエンスパークつるまき
- ◎大学工学部退官教官の協力を得て、普段の理科の授業では体験できない、水と空気を使った楽しい実験を通して、科学の楽しさ、不思議さに触れさせる。
- ・鶴巻小学校の理科室を会場に年2回実施
- 第1回「ペルトン水車を回そう」(7/28)
- 第2回「風に乗ろう」(11/29)

3 鶴巻児童館との連携事業

- (1) 本に親しもう～おはなし会、読み聞かせ
- ◎地域の読書支援ボランティアと学校及び児童館の協力を得て、学校図書館や児童館を会場に継続的に読書啓発活動を行う。
- ・地域ボランティアによるおはなし会。読み聞かせやエプロンシアターなどの活動をとおして、読書の楽しさを伝える。
- ・児童館を会場に、毎月第2火曜日に実施
- (2) リトミックを楽しもう
- ◎地域在住のリトミック指導者の指導により、リトミックを楽しむ。
- ・児童館を会場に、毎月第3土曜日に実施

やしおキッズ（川前小学校）



★ジャンボカルタ大会★



開催地：川前小学校室

利用施設：図書室・多目的室

開催日：月・水

開催回数：48回

参加者：登録者数 93名 延べ1,052名

指導者：登録者数 5名 延べ197名

主な活動：自由遊び・囲碁教室・製作活動

教室の特徴：子どもたちの自主性を育てるため

フリータイム（自由遊び）が中心に活動しています。その他夏・冬休みに製作活動（竹コップづくり・ホットケーキ作り）を行ったり、地域の体育振興会の行事に参加しました。

今年度のやしおキッズは、フリータイムをメインに活動してきました。昨年度は、大人が企画して準備もし、子供たちはある意味お客様の状態でした。「これでは違う」とスタッフ会議で反省し、一年に何回かはお楽しみを準備しましたが、普段の活動は、こどもたちが自らやりたいことを見つけて実行するようにしてみました。

初めのころは、「今日は何するのー？」という声があっちからもこっちからも聞こえていましたが、いつの頃からか、自分たちでやりたいことを見つけ、「〇〇したいんだけど、●●ない？」と言ってくるようになりました。その中の一つに、「紙ドッジボール」があります。ある日、三年生の女子が、「ドッジボールしたいんだけど…」と言って来ました。「室内でドッジは無理だよ。」と答えると、「紙でボールを作るから。」と言います。そこで、新聞紙やセロテープ、ガムテープなどを出してあげるとソフトボールより一回りくらい大きな紙のボールを自分たちで作って、多目的ホールで遊び始めました。他の学年の子供たちとの小さなトラブル（入れてあげるのあげないの…）もありましたが、すっかり定番となり、仲良く遊んでいます。

お楽しみ活動としては、夏休みに開催された川前小学校の「やしおサマースクール」の中

の一日をやしおキッズが担当し、子供たちに竹でコップと箸を作らせました。この時は、川前小の技師さんに多大なご協力を頂きました。また、12月には、「みんなでホットケーキを作って食べよう」という企画を実施しました。スタッフの予想に反して●名の応募があり、家庭科室だけでは収まりきらず、図工室も使いました。この時は隣の大沢中学校の生徒さんたちと保護者方数名にお手伝いして頂きました。ホットプレートでホットケーキを焼き、ジャムやマーガリンを付けて食べるだけの企画だったのですが、子供たちは（中学生も）とても喜んでくれました。火傷なども心配していましたが無事に終わることができました。

今年度の活動を通して、「放課後教室ってなんだろう？」と改めて考えています。「子供版カルチャーセンターを期待されているのだろうか？」また、会場が学校ということもあり、「子供たちにとっては学校（授業）の続きのようになっているのでは？」と思うこともあります。自分の家と同じという訳にはいかないと思いますが、ゆったりとリラックスでき、そして明日への元気の源となれるような居場所に、少しでもなれたらと思って来年度も活動していきたいと思っています。

仙台市放課後子どもプランモデル事業を終えて

学校と地域の融合教育研究会（融合研）では、平成17年度・18年度に全国35箇所で開催した「地域子ども教室推進事業」、平成19年度・20年度に仙台市を中心に12箇所で開催した「放課後子ども教室モデル事業」と、継続して子どもの居場所づくりに係る委託事業に取り組んできた。学社融合の理念のもと、各地で実践の成果をあげることができ、融合研として新設した「子ども教室部会」も今後の活動の推進が期待されている。

昨年度モデル事業に取り組んだ7箇所を研究協力教室として、新たに5箇所で開催した放課後子ども教室を立ち上げた。実際に活動を展開した仙台市においては、子供の居場所づくり事業の意義を明らかにしたことで、今後の事業発展に向けて大きく前進できた。また、私たち融合研にとっても、地域子ども教室から数えて4年間に及ぶ実践の積み重ねは、学社融合の理念を具現化する貴重な実践の場となった。

今年度、仙台市内で取組んだ放課後子ども教室モデル事業がもたらした成果の一つは、子どもを中心に地域がまとまる動きが見られたことである。事業を通して子ども達に関わった人々が地域づくりやまちづくりに取り組み始めた事例が生まれている。放課後子ども教室事業が、地域における市民活動の担い手を育成する場になっていることを実感できた。二つには、保護者や教師以外の大人たちと子どもたちとの関わりを創出できたことである。いろいろな人との触れ合いを通して子どもたちの人間性を高めることができるのも放課後子ども教室事業の効果である。三つには、学校や教室の中では目立たなかった子どもたちが、放課後子ども教室活動の中で認められ、自信をつけて、自分の可能性を広げ始めたことである。四つには、放課後子ども教室を学校と地域の連携基盤の一環としてとらえ、学校の重点目標に位置づける学校が生まれてきたことである。学校の理解が深まったことは大きな成果と言える。五つには、仙台市が事業の推進に本腰を入れたことである。放課後子ども教室と放課後児童クラブの融合を目指すとともに、地域と学校を結ぶ目的で事業の拡大を行った。厳しい財政状況の中での拡充は、画期的なことである。

放課後子ども教室について、子どもたちは安全で楽しい放課後の居場所と捉えており、保護者の多くが子どもたちに多様な経験をさせられる有意義な場として認めている。また、地域の方々も、子どもたちを健やかに育むと共に社会に役立つ自己実現の場として受け止めている。一方、学校や教職員は、より良い教育実践に不可欠な地域の人々の深い理解・厚い協力を得るために、最も効果的な取組みの一つだと考えている。

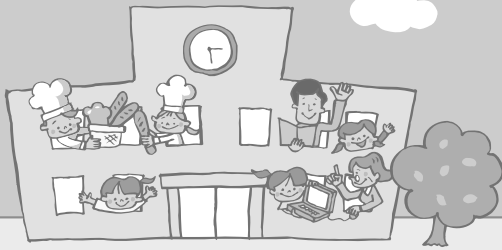
心身ともに健全な子どもたちは、心豊かに生きる大人たちの中でしか育たない。未来を託す子どもたちを健やかに育むためには、そこに暮らす大人たちがより良く生きる姿を見せてやる必要がある。放課後子ども教室は、子どもたちと教師という限られた関係しか存在しなかった学校に、子どもたちと多くの大人たちとの出会いを生み出してくれた。これからの社会で益々必要な活動であり、今後も発展させていくべき事業である。

融合研として、組織を挙げて協力してきた「放課後子ども教室モデル事業」だが、この活動報告書が全国で日々実践している方々や、これから活動を始めようとしている方々の参考になれば幸いである。

学校と地域の融合教育研究会・副会長 野澤 令照

放課後子ども教室 フォーラム in 仙台

すべての子どもたちの幸せを求めて！



開催日 平成20年12月7日(日)

開催時間 9:30～12:30

会場 仙台市役所 8階ホール

※会場への入り口は、市役所本庁舎北側の守衛室前になります



めまぐるしく変化する現代社会！
未来を担う子どもたちを健やかに育むことは、
社会の責任です！
今、国を挙げて取り組んでいる「放課後子どもプラン」。
地域全体で子どもたちを見守る環境づくりを進め、
子どもの安全で健やかな居場所を確保しようとするものです。
このフォーラムでは、「放課後子ども教室」の
意義を確かめ、その成果と課題を明らかにし、
今後の取り組みを充実させることを目的としています。
さあ、皆さんで、大いに交流を深めましょう！

プログラム

開会挨拶 9:30

仙台市放課後子どもプランモデル事業実行委員会 委員長 山川 由紀子 氏

実践発表 9:40～10:15

〔仙台市内で活動する放課後子ども教室の実践発表〕

将監けやきこ放課後教室

仙台市立将監小学校



与えられたルールの中で
どう過ごすか各自で考え、
たくさんの経験をし、異
年齢の集団の中で遊びな
がら学んでいます。楽しい
時間、安全な場所、安心
できる環境を提供し、子
どもたちがゆっくりに成長し
ていく場所です。

あけぼの教室

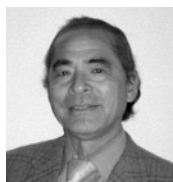
仙台市立東宮城野小学校



空き教室を利用して、毎
週水曜日の放課後に開催。
学校帰りにふらりと立ち
寄り自分の好きな遊びで
のんびり過ごしたり、指導
員のお母様たちから折り
紙やその他の必殺技？を
教えてもらったりしながら
楽しく活動しています。

基調講演 10:20～10:50

演題 「学校と地域をつなぐ子ども教室」



基調講演者 学校と地域の融合教育研究会 会長 宮崎 稔 氏

講師プロフィール

文部科学省・全国体験活動推進アドバイザー、経済同友会教育委員会・学校と企業・経営者の交流活動推進委員会アドバイザー、日本初等理科教育研究会副理事長などを歴任。「理科教育」、「地域との融合」については、実践論文、著書、共著ともに多数。講演でも全国行脚中。

パネルディスカッション 11:00～12:20

主 題 「放課後子ども教室がもたらすものは」

パネラー 宮崎 稔 氏 (学校と地域の融合教育研究会) 遠藤 徳生 氏 (仙台市立将監小学校長)
山川 由紀子 氏 (放課後子どもプランモデル事業実行委員会委員長) 庄子 修 氏 (仙台市教育委員会教育指導課長)

コーディネーター 野澤 令照 氏 (学校と地域の融合教育研究会・子ども教室部会長)

閉会挨拶 12:25

仙台市放課後子どもプランモデル事業実行委員会 副委員長 針生 英一 氏

主催 仙台市放課後子どもプランモデル事業実行委員会
共催 仙台市教育委員会・学校と地域の融合教育研究会
後援 仙台市・仙台市嘱託社会教育主事研究協議会

問い合わせ先

仙台市教育委員会生涯学習課 松崎・鎌田

022(214)8887

パネルディスカッション

主 題

放課後子ども教室が もたらすものは



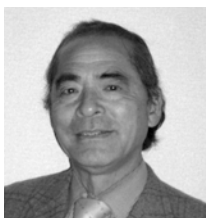
▶ コーディネーター



野澤 令照 氏

学校と地域の融合教育研究会・子ども教室部会長
公立小学校教諭として勤務するかたわら社会教育主事の資格を取得。以後、学校現場や教育行政の場で学校教育と社会教育の融合を目指す。現在は学校教育部で学力向上を担当。

パネラー



宮崎 稔 氏

学校と地域の融合教育研究会長
習志野市立秋津小学校長時代に学社融合の草分けとなる実践を築き、『学校と地域のかろやかな連携』で読売教育賞最優秀賞を受賞。以後、学社融合の取組を広げるべく全国を飛び回る。



遠藤 徳生 氏

仙台市立将監小学校長
前仙台市小学校教育研究会函工部会長。赴任後1年で学校と地域の連携を密にし、地域に開かれた学校を創り上げた。児童、保護者や地域からの信頼も厚い情熱校長。



山川 由紀子 氏

放課後子どもプランモデル事業実行委員会委員長
元仙台市教育委員。市PTA協議会副会長など要職を歴任。今も仙台の子どもたちのために、より良い教育環境の実現に奔走する。日々のコミュニティ活動に加え各方面で活躍中。



庄子 修 氏

仙台市教育委員会教育指導課長
仙台市内公立中学校長から教育指導課主幹を経て現職。現場では熱血あふれる指導で生徒や教師から慕われた。現在、全国に誇れる仙台の教育の実現に向けて激務をこなす毎日。



放課後子ども教室ご紹介



遠見塚 YOU-GOクラブ

学校・PTA・社会学級が連携して立ち上げた。地域の方々、市民センターの理解も得られ、子ども達それぞれが、自主的な遊びや学習を通して仲間づくりをしている。



スマイルパーク 旭ヶ丘

学校改築で体育館と校庭が利用できず、教室以外に地域の団体と連携し校外の活動も実施。新校舎が間もなく完成すれば、新環境での活動の広がりが期待できる。



加茂っ子 放課後教室

感謝の輪をひろげよう…がモットー。「子ども」をキーワードに地域の方々へも活動の場を提供している。放課後教室は地域活性化の有力な道具。有効活用が必要。



あけぼの教室

いつでも、誰でも、ひょいっと立ち寄れる教室を目指している。「遊んでばかりじゃいけない」と宿題をする子も。不定期実施のスペシャルイベントも好評。



ニコニコ にしまっ子 クラブ

今年度スタート！月・水の放課後、和室での宿題、談話室や校庭での自由遊びを中心に活動中。自然いっぱいの裏山では、どんぐりや落ち葉で楽しく遊んでいる。



西中田 コミュニティ スクール

5年前より地域が主体となって学校内に設置した事務局で運営、地域の理解と協力は大きく、支援体制も充実。地域をあげたお祭りも定着し、地道な活動継続に励む。



わいわいパーク 黒松

連合町内会、黒松校区子ども会育成会、学体振、児童館等の地域諸団体と連携し保護者を中心に子どもの居場所、子どもと大人の交流の場作りに月～木、土に活動。



将監 けやきっこ 放課後教室

3～6年生が「遊び」と「勉強」を軸に活動。イベントは学校・地域・保護者の協力を得て実施。子どもの意思に基づく自由活動を大切にしている。



ミュージズ かのっ子広場

楽器に触ったり、聴いたり、触れ合ってわかるものを大事にしている。音楽家の集団とかのっこボランティアと学校との融合から生まれた子ども教室。



住吉だっ子

学校、PTA、地域の協力のもと、放課後わくわくタイム・太鼓・歌の3つの教室を中心に活動。地域の子を地域で育てようと、子どもの居場所づくりを行っている。



やしおキッズ

学校での縦割り活動をいかにしながら、地域の大人や中学生と交流を深め「地域の一員」という気持ちを育てていきたいと考えている。地域の理解、協力が拡大中。



つるまきッス わくわくクラブ

放課後や休日の子どもの居場所づくり、日本の文化に親しむ活動、放課後の子どもの学習支援などを、地域の施設や団体の協力を得ながら行っている。

放課後子ども教室フォーラム in 仙台～すべての子どもたちの幸せを求めて！～

2008/12/07 9:30～12:30

仙台市役所 8階ホール

I 開会挨拶 仙台市放課後子どもプランモデル事業実行委員会委員長 山川 由紀子氏

II 実践発表<仙台市内で活動する放課後子ども教室の実践発表>

1 将監けやきっこ放課後教室（仙台市立将監小学校） 代表 長内 美香子氏

- ・地域とのかかわりー音楽教室，お手玉など
- ・親子スペシャルデーー夏休みに実施。各団体とも連携。流しそうめん，竹細工等
- ・けやきっこ教室

4つの特色

① 活動について

（常時活動）

- ・自由活動ー子どもたちが何をすべきかを考えて活動（子どもの意思を大切に）
 - ・お便りの作成
 - ・活動の際のルール（挨拶，みんなで使う物を大切に，学校のルールを守る）
- （長期休暇中の活動…地域の人たちやNPO団体と）
- ・スタディールーム，カメラを楽しもう，ケーキ作り等

② 運営スタッフについて

保護者，保護者 OB，地域の方，学生ボランティア（宮城教育大学、東北学院大学
宮城学院女子大学）＋学校職員

③ コラボレーション

- ・高校（明星高校ー親子陶芸教室，おひさまパン作り）
- ・将監子ども楽校（田植え，稲刈り）
- ・地域の方（書道，お手玉）
- ・企業（明治乳業ー親子クッキング，かんでんぱぱー寒天料理教室，
ジャグ☆ボーイズージャグリング，おはなしクローバーーおはなし会）
- ・学校（折り紙遊び，梅の収穫）

④ 受入児童

将監児童センター内の児童クラブ（1～3年生対象申し込み多数）

→登録できない児童をけやきっこ放課後教室で（3～6年生対象）

教室や指導員の関係で50名程度を受入（H20年度は47名）

運営の工夫

- ① おたよりの発行
- ② 保護者説明会ー内容説明。PRとボランティアで運営していることの周知，参加を促す→任せっきりからの脱却
- ③ 連絡帳の活用（電話または連絡帳にて児童の活動の様子などを伝える）
- ④ 保険（スポーツ安全保険に加入ー個人負担）



- ⑤ メール配信(まち comi メールシステムの活用)
- ⑥ 教室専用携帯電話の活用(学校を通さずに連絡し合える)

今後の運営について

① 資金的な支援について

H19年度文部科学省モデル事業、
H20年度仙台市の委託事業を受託
—今後支援が受けられるか不安。

② 人材の確保

受入人数が増えたり、回数が増えるとそれに伴って運営委員の確保が必要。
ボランティアの募集も(経済的にも)不安がある。

③ 活動拠点

安心して活動できる場にするために、
施設面での制約(登録者を制限せざるを得ない)
活動時間の確保(授業終了時間と下校時間の兼ね合い、土日利用は教員の理解が必要)



2 東宮城野あけぼの教室(仙台市立東宮城野小学校)

代表 齊藤礼子氏 指導員 菅野ゆうこ氏 (株)仙花 今野貴彦氏

- ・学区について…学区内に卸町・仙台中央卸売市場がある。

児童数 215 名、たてわり活動を通して、子供と保護者が顔の見える関係になれる規模。

児童館や児童クラブ(留守家庭預かり)はない。

- ・あけぼの教室のモットー

—いつでも、だれでも、ふらりと立ち寄りたくな
楽しい空間に—

- ・活動について

—日常活動…毎週水曜日 14:00~16:00

—活動場所…東宮城野小空き教室

—活動形態…自由活動が中心(参加者も自由参加)

卓球, 折り紙遊び, 自分だけの部屋作りなど

指導員とボランティアのお母様たちで見守り隊

掲示物作成, やくそく作りなど

—スペシャルイベント…参加者の拡大とボランティアを広めるため。

曜日をかえて実施(肝試し, 花育, 囲碁)

→父親の参加, 高齢者との交流, 企業, 市民センターとの共催事業

- ・指導員の皆さんのあけぼの教室への思い…レジュメ参照

- ・これからの活動について

…地域, 保護者の方に講師になってもらって(料理, 凧作り, プラ版づくりなど)



…補助が打ちきりとなり，週 2 回
(水月) の活動日が一回になって
しまった。

(子どもたちの居場所作りの
ために企業，ボランティアの
協力を得て運営している)

- ・地域企業(株)仙花との連携
…花育→花壇作り (親子で自然に
親しむ，自分の名前一生長の
過程)

→フラワーアレンジメント

(自分の発想を生かし，感性を磨く)

→押し花しおり，はがき作り (創造性を高める，保護者を講師として活用)

→高齢者にプレゼント (人とふれあう，子供，高齢者の笑顔)



Ⅲ 基調講演「学校と地域をつなぐ子ども教室」 学校と地域の融合教育研究会会長 宮崎稔氏

- ・まじりっこの活動について

- ・指導員は月 1 回打ち合わせを持つ (若い指導員の考えも聞く機会になっている)

- ・活動内容は子供達の考えから

- …「子ども会議」みんなで話し合い (行事の内容，決めて欲しいことなど)

- ・活動，参加は基本的に自由 (名札受け渡し，回収と受付はしっかりと行う)

- ・大人がリードしていく活動

- (読み聞かせ，本の紹介など，休日は活動場所を変え，アスレチック，稲刈りなど)

- 他の団体の協力，かかわりを増やす (ネットワークづくり，ボランティアの確保)

- ・子供が自らあみだしていく活動 (予算がなければ準備は大人で)

- (カプラ，スリッパ遊び，クリスマスケーキ作りなど)

- 自由に，発想豊かな遊びの工夫を。指導員は，安全に配慮して。

- ・子ども教室の役割

- 自分の家族以外に信頼できる大人
が地域にいること

- 指導員は…必ずしも資格，責任の
とれる人でなくとも

- …不登校，中途退学者など準
指導員として

- (大人の居場所としても)

- 子ども教室の名を借りた町作りの
場所，居場所作りの場所として。

- そういう意味で地域評価をしてもらいたい。



IV パネルディスカッション

パネラー 宮崎 稔 氏 (学校と地域の融合教育研究会会長)

遠藤徳生 氏 (仙台市立将監小学校校長)

山川由紀子 氏 (放課後子どもプランモデル事業実行委員会委員長)

庄子 修 氏 (仙台市教育委員会教育指導課長)

コーディネーター 野澤令照 氏 (学校と地域の融合教育研究会・子ども教室部会長)

野澤：初めに自己紹介から。

山川：学校の PTA に足を踏み入れたのがきっかけ。西中田コミュニティースクールは 5 年目の活動をむかえた。地域の教育力が見えにくくなっており、結びつきが薄くなっている今、子ども教室は「地域を掘り起こす金のスコープ」である。学校教育が中心となっている現状で地域での教育がどこまでできるか試したい。

庄子：学力向上がうたわれている中で本当に必要なものは…世の中に出たときに役立つ力、生きていく力である。偏差値や成績だけでなく、体験が必要。

学校の多忙さ→学校でできることには限界がある。地域の力を借りる意味でも放課後子どもプランが大切である。

遠藤：私の考える学校教育とは、楽しい学校作りである。

子供が楽しい、教員が楽しい、親が学校に入ってきやすい (PTA、親子教室、父ちゃんクラブなど) 学校ではないか。

宮崎：校長の立場を離れると制約にしばられずにやりたいことができる、見えてくる。

学校開放 (休み時間なども) 地域の方々が自由に入れる雰囲気がよい町、よい子どもづくりへとつながっていくのでは。行政や学校側もいろいろなことをさせたいのだが、制約が多い。大人が知恵を出し合ってよい町作りを。

今の子どもたちは少子化、核家族化で人間関係、コミュニケーション力が不足している。子ども教室は貴重な場である。様々な体験を通してコミュニケーション力を高め、人との関わり (免疫) をつけていくことも大切。地域の高齢者も生き甲斐を感じる場でもある。被害者がでないようにというより加害者がでないように安全なまちづくり。

野澤：子ども教室の良さとは。

庄子：参加 (参画) している人が楽しんでいることが子どもたちにも表れる。

山川：参加している地域の人たちが楽しむだけでなく、子どもたちにとって自分たちが必要であることを感じている。行く行くは子どもたちに地域のリーダーとして育てて欲しいという願いがある。

遠藤：先生方の中には、負担が増えるのではないかと考える人もいるがそうではない。PTA 行事で行ったものが子ども教室での活動になっていたり、子ども教室で行ったもの (ネットワーク作りも含めて) が授業で生かされたりする場面もある。先生方がその良さを実感できるようになれば、考え方も変わる。学校経営の一部としてとらえている。

宮崎：地域の人たちは先生が活動に参加してくれるのを喜ぶが…諸刃の剣である。



都合があり参加できない先生もいる。学校で活動しているのだから、先生が来てくれたっていいじゃないかなど要求する形になってしまっただけではいけない。そうなると学校と地域が離れてしまう。よさを教員と地域にゆっくりと浸透させていく必要がある。

野澤：教師自身が良い思いをすることが必要。参加している先生が楽しい、地域の大人が楽しいのが大切。では、子どもたちにとって子ども教室とはどのようなものなのだろうか。

庄子：実践報告だが、西中田を訪れて、子どもたちが非常に生き生きとしている。子どもたちがどのようにとらえているかは調査が必要である。（費用対効果）ただ、調査には表れない部分もある。自分づくり教育では、職場体験などで地域と学校を結んだが、子どもたち自らマナーやコミュニケーション力が必要であると学ぶ場になった。

野澤：子ども教室はもっと広がりをもってもよいのではないか。

山川：地域全体でどこまでできるかという部分で…学校の先生方がどのように関わっているかわからないというのが現状。管理職が変わり、体制が変わることも考えられる。

参加している子どもたちも楽しいと言っているが、もっと〇〇したいという要求に応えられないでいる。地域の方だけでは限界があり、情報も少ない。

野澤：学校の教員のかかわり方はどうあるべきか。

遠藤：学校経営の一部というのは後付であり…課題はある。

教員の多忙化（教頭、教務）、場所の提供だけなのか、事故が起きたとき（管理下外なのか管理下内なのか）→学校はできるだけのことをやるが二の足を踏んでいる状態。

宮崎：責任体制の問題も確かにある。

地域と共に育てるということは行く行くは先生方にかえていくものになる。目先の多忙感にとらわれることのないように。学校にとっても、地域にとってもプラスになる。地域が学校の応援団になることが必要。

野澤：まかせっきりからの脱却について。

山川：保護者会を開こうと思っても…人が集まらないと思う。逆に西中田は私たちに任せて欲しいという考え。逆に参加児童が減ってしまう可能性もある。

遠藤：将監で保護者説明会を行ったのは、事故があったときの経験から。4、5月に仮入級体験があり、保護者会に参加した人だけ入ることができる。保護者会の他にもおたよりで啓発や参加を促している。

宮崎：保護者会は一度も行えないでいる。居場所のいない子どもたちも多い。自由に気軽に参加できる体制にしたい。地域の子どもたちだから守っていききたい。保護者側と子ども側のバランスをとることが大切。

遠藤：子ども教室を長年やっているところと始めたばかりのところの差が出たのではないか。

宮崎：保護者が全員こられなくとも、活動をやり続ける必要はある。やっているうちに分かってくれる保護者がいる。

山川：だめもとでも保護者会をやってみよう。

野澤：保護者説明にも立ち上げの時期や地域によっての違いがある。わいわいパーク黒松ではどのようにしているのか。

村松（わいわいパーク黒松）：全校の児童対象に行っているが、保護者が来る児童を優先して



入れている。見守りから一緒に遊んでもらったり、簡単なお手伝いを頼んでみたりしてスタッフとしての声かけを行っている。

野澤：人材を増やしていくやり方にはこうしたやり方もある。子ども教室がもたらす恩恵にはどのようなものがあると思うか？

庄子：自分づくり教育の職場体験では…伝えたい人が子どもたち相手に伝えたいことが伝えられたという喜びがある。子どもたちもそこから学んでいる。教師も子どもたちを売り込もうと頑張っている。子どもも大人も交流することで互いに成長することができる。

山川：放課後子ども教室がなければ、地域の情報交換はできなかった。地域の人たちや児童館の方、市民センターの方々などとの地域のつながりは無駄ではない。さらに学校（教員）と力を合わせてよりよいものにしていきたい。

遠藤：竹細工で箸を作ったときのこと…子どもが自分の分だけでなく家族の分まで作っていた。そのような思いを育てることができる場である。手や体を動かす体験も必要。さらに子どもたちが抵抗を感じる体験を積ませることによって、達成したときの喜びを味わわせることができるし、伸びも期待できる。

宮崎：これからの子ども教室では4つことが考えられる。

一つ目はコーディネーターの存在。教員や指導員，ボランティアとの架け橋的存在。

二つ目は、大人のよいと考えることが子どもにとって本当によいことなのかを常に考えること。子どもが自分で乗り越えていくことの大切さ、また大人も学んでいく。大人が待つことの大切さ。

三つ目は行政面（予算がないかもしれないが）のバックアップ。地域のため、住民のためを考えて応援してもらいたい。

四つ目は人の問題。その地域には本当に必要としている人材がいるのか？もっと広範囲にとらえて、行政がかかわっていく必要があるのではないか。今後その地域の人たちだけでは負担が増える可能性がある。行政が様々な地域の人たちとかかわりやすく取りはからう施策のようなものを出してもらいたい。

野澤：保護者、企業、教員、行政、それぞれの立場で努力していくことが未来につながる。子どもたちを取り巻くより良い環境、より良い地域づくりのために取り組んでいきたい。

北光クラブがすすめる学社融合活動の実践（栃木県鹿沼市）

北光クラブ 代表 渡邊 真知子

1 北光クラブとは

- 設 立 2000年 一部は1997年から活動開始
- 目 的 保護者・地域住民の生涯学習の振興 結果としての学校教育との融合
- 構 成 保護者や地域住民でつくる8サークルと事務局
- 活 動 日 平日、土曜日、日曜日、長期休業中などいつでも
- 活動場所 鹿沼市立北小学校を中心に、学区内施設、時には学区外でも
- 活動内容
施設共用 サークル活動 8サークル
運営協働 学校評議会への参画
 P T Aの活性化支援
 研修活動の実施
 学校運営にかかわる活動の支援
 放課後子ども教室の開催
授業協働 各種の授業を協働して計画、実践
評価協働 北光クラブ運営委員会
 授業反省会
コミュニティ協働 北光クラブニュースの配布
 サマースクール
 チャレンジスクール
 各種団体の活動成果を学校教育に活動

*詳細についてはホームページ <http://www10.ocn.ne.jp/~hokko/> をご覧下さい。

2 基本はサークル活動

- 学校支援が目的ではない
- 自らの楽しみとして活動
- サークルの種類
 - ① 自らの学び・仲間づくりの
ためにサークルを結成
 - ・北光家庭クラブ・自然観察クラブ
 - ・P P C・手話サークル
 - ・北光コミュニティ広場
 - ② 学校が抱える課題を自らも関わって
解決したいとサークルを結成
 - ・スクールアシスタント ・ベルマークボランティア ・北光ワールド



3 研修による協働意識づくり

- 新任・転任教職員対象に北光クラブの活動の説明会を開催
- ボランティアティーチャー説明会（P T A学年部委員も同席）
- 北光クラブ研修会（学校としては現職研修に位置づけている）

- 授業公開・・・保護者への啓発・研修

4 計画づくりから始まる協働

- 授業案も協働で作成

＊学校発意の場合

担任 → 教務主任 → 北光クラブ事務局 → スクールパートナー → 北光クラブ事務局 → 教務主任 → 担任 ⇔ スクールパートナー

＊地域発意の場合

保護者・地域住民 → 北光クラブ事務局 → 教務主任 → 担任 → 教務主任 → 北光クラブ事務局 → スクールパートナー → 北光クラブ事務局 → 教務主任 → 担任 ⇔ スクールパートナー

【ここでの配慮事項】

- ①北光クラブ事務局がコーディネート
- ②学校側にもコーディネート担当
- ③スクールパートナーも計画作りに参画

- 地域活動案も協働で作成

北光クラブ事務局 → ボランティアティーチャー・北光クラブサークル・PTA 学年部委員に目的を説明 → それぞれが計画を作成 → 北光クラブ事務局 → 学校への説明

【ここでの配慮事項】

- ①北光クラブ事務局がコーディネート
- ②かかわる人が計画を自ら作成
- ③学校との密接な連絡調整

5 協働のためのシステムづくり

- 学校運営への北光クラブの位置づけ・・・学校の意志の表明
- 年間計画の作成・・・学校との協働が容易に
- プログラム作成のマニュアル化・・・誰でも簡単に協働を実現
(＊「学社融合プログラム作成簡単ナビゲーションソフト」があります)

6 私達にとっての評価

- 参加人数や実施回数の評価は意味を持たない
- そこから、何が生まれたかを重視
 - ①次にまた参加したいと思ったか。
 - ②主催する側が、またやってみたいと思ったか。
 - ③「楽しかったよ」と他人に話してみたい実践であったか。
 - ④自分も何かをやってみたいと思う参加者がいたか。
 - ⑤北光クラブの充実につながる実践であったか。

使用機器 プロジェクター PC

仙台市放課後子どもプランモデル事業実行委員会総括会議記録

1 日時 平成 21 年 3 月 15 日（日） 於 ホテル白萩

2 参加者 モデル事業実施教室（5）協力教室（7）の代表者等、約 30 名

3 概要

（1）実行委員長挨拶（開会）

◇ 仙台市がこの事業に関心を持ち、委託事業としたことの意義が大きい。地域の教育力に大きな注目が集まっている今、この事業や取組の意義に誇りを持って今後も実践していきたい。

（2）各教室からの挨拶・所感

- ・はじめての取組だったが 80%の達成感があった 地域をつなぐことができた。
- ・他の教室の活動内容から学ぶことが多い 学習指導要領の改訂に伴い、授業時数の増加など検討すべき課題が多い。
- ・校長が学校経営の一環として取り組んでおり、学校、地域の連携の基盤づくりに努めている
- ・PTA 役員が代々継続して活動の中心となっている 学校からの協力も手厚い。
- ・市の予算を受けて運営しているが、活動の拡大、充実について課題が大きい。活動の継続に意義を感じている（協力教室：仙台市所管の子ども教室）。
- ・1 年半の活動だが、学校の協力もあり 104 回の講座が実施できた。
- ・当初、学校の理解が得られなかったが、徐々に改善してきた。市民センターの理解は大きい。
- ・継続して活動してきたリーダーの存在が大きい。昔から実施してきた書道講座の活動が土台になって、子供の居場所づくりにも取り組んだ。のべ 3,000 の児童が参加。
- ・学校の活動としてあったものを時間をかけて地域とつなげてきた。

（3）各教室からの成果発表

- ・職を退き、家庭に入っていた方々から協力をもらい、感謝の声をいただいた。地域から期待される取組になってきていることを実感する。
- ・地域にある複数の団体の交流や情報交換の窓口になった。保護者から安心を得られる組織作りができ、地域と子供たちをつなぐことができた。
- ・父親の協力を得て、肝試しのような大きなイベントを成功させることができた。PTA 役員や保護者の協力が得られ、取組みを継続できている。
- ・子供たちが生き生き活動しており、子供たちの雰囲気良くなってきている。
- ・児童クラブに通えない児童との交流ができ、子供たちの放課後の居場所を作ることができた。
- ・学校からこの事業についての提案があり、学校と連携した活動を実現できた。朝会で子ども教室のスタッフを紹介してくれるなど、学校の理解が深まったことを感じている。コンサートに教員が参加するなど、学校が協力的であることや先生方の様子がわかるようになるなど、多くのメリットが生まれてきた。

◇ 成果のまとめ

- ① 地域を巻き込み、地域をつなぐ役割ができたこと
- ② 保護者や教師以外の大人と子供のかかわりが創出できたこと
- ③ 子供の自己肯定感を高めることにつながったこと

(4) 課題について

① 事業予算等について

- ・仙台市としての予算化が拡充されたことは評価できる。消耗品程度の小額の助成でも構わないので今後も継続してほしい。
- ・将来、予算が縮減されたとき、地域や学校からの助成は期待できないだろうか。
- ・印刷機の使用など、事務官たちが校内での配慮をしてくれているが、これ以上は難しい。
- ・助成はあるに越したことはないが、無くなったとしても行政が支援する活動であるという位置づけが大切である。
- ・学校支援地域本部事業とのリンクが期待される。市立全学校内に地域連携担当が位置づけられることも画期的なことである。

② 子供の指導について

- ・低学年の参加が多く、活動内容の工夫が不可欠である。学校との連携を図りながらも、可能な範囲で活動を充実させていくことを心がけている。
- ・限られたスタッフの人数では、1年生の指導には限界を感じるが、一方で指導の必要性も強く感じる。
- ・問題行動の見られる子供の保護者との関わり方が難しく、課題を感じる。
- ・子どもがケガをした時に備えて、あらかじめ対応可能な範囲を保護者に示すことが必要。

③ 学校との関わりについて

- ・教師とスタッフが子供について話し合う機会を設定したが、互いの理解を深められた。
 - ・授業参観時に低学年児童の託児を引き受け60名～80名の子供の参加を実現したり、子ども教室で所有する画板を学校へ貸し出したり、学校の需要に敏感になることも必要である。
(教諭) 对学校への厳しい世論が教師の壁を強固にしていること 連携≠融合のこと
(教頭) 社会教育主事以外の教員への啓発が重要であること 学校への要求は具体的なほうが理解されやすいこと
 - ・全ての市立学校に地域連携担当の教師を置くことになっており、学校と地域との関わりをより円滑にできる環境が整ってきている。
 - ・提案をする側と判断をする側の連続的な(修正含む)話し合いが求められており、日頃から良い関係を構築しておく必要がある。
- ##### ④ 次年度以降の活動について
- ・児童クラブと融合した形式の子ども教室(子供未来局所管)と、従来の形式の子供教室(教育局所管)とが、併設しながら事業の拡大を図っていく。
 - ・本実行委員会の役目は終えたが、各地域で活動する放課後子ども教室同士の連携と支援を行う目的で、次年度以降も自主的な運営を行っていく。

(5) 副委員長挨拶(閉会)

- ◇ 地域のことがらに行政が口を出す風習に変化が生まれている。都市ビジョンの形成などを通して、地域の担い手となるための資質や経験を育むことが必要である。それぞれの地域で町内会対策にとどまらない地域づくりを目指したい。学校と地域の結びつきから新たな地域コミュニティづくりを志向して行きたい。

平成20年度 仙台市放課後子どもプランモデル事業報告書

発 行 仙台市放課後子どもプランモデル事業実行委員会

住 所：〒980-0821

宮城県仙台市青葉区春日町2-1

せんだいメディアテーク7階メディアアシスト内

電 話：022-723-0892

F A X：022-723-8966

メール：byun@alto.ocn.ne.jp

H P：http://www2.zundanet.co.jp/kodomo/

発行日 平成21年3月